

Q：最近ユニバーサルデザインという言葉をよく耳にしますがどのような考え方なのでしょうか？

A：年齢や性別，身体的能力，国籍や文化など人々の様々な特性や違いを超えて，すべての人が利用しやすい，すべての人に配慮したまちづくりやものづくり，しくみづくりを行うという考え方，これがユニバーサルデザインです。

ユニバーサルデザインの考え方は，アメリカの建築家でノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンターの所長を務めたロナルド・メイス氏(Ronald L.Mace)により提唱されました。その7つの原則と事例を紹介します。

- 1．だれもが公平に使えること  
(どのような利用者にとっても役に立ち，市場性がある) 低床バス，低床電車，自動ドア
- 2．幅広い使い方に対応していること  
(個人の幅広い好みや能力に適應している)  
タッチパネルと押ボタンがある現金自動受払機
- 3．単純で直感的に使えること  
( unnecessary 複雑さがなく，使い方が分かりやすい)  
差し込み方向を示すプリペイドカードの切りこみ
- 4．必要な情報が分かりやすく伝わること  
(必要な情報が効果的に伝わる)  
音声と視覚情報を併用した駅の列車案内
- 5．危険や誤作動につながらないこと  
(危険や予期しない行動がもたらす不利益を最小限にとどめる) プラットホームの二重扉  
扉を開けると停止する電子レンジ
- 6．からだへの負担が少ないこと  
(効率的で快適な，そして疲れない)  
レバーハンドル式のドアノブ
- 7．利用に十分な大きさや広さを持っていること  
(近づいたり，操作したりするための適切な大きさや広さを備えている) ボタンの大きなりモコン・電話機

近年，このような考え方を基にしたユニバーサルデザインのまちづくりやものづくりが一般に浸透してきています。また，これを政策や事業の柱として導入する自治体や企業も見られるようになってきました。

(デザイン・工芸部)

Q：インターネットに接続するだけで感染するコンピュータウィルスがあると聞きましたが本当ですか？

A：先日流行した「Blaster」と呼ばれるウィルスがそれです。

このウィルスは，Windowsのセキュリティホール(システムの不具合)を利用してコンピュータを誤動作させ，自分自身のコピーを送り込み増殖を続けていきます。感染すると，画面にエラーメッセージが表示され，Windowsが再起動を繰り返す症状が現れます。

これまでのウィルス感染が，主にメールの添付ファイルを開くという，ユーザーの能動的行動を必要としていたのに対し，このウィルスは，ネットワークを通じてユーザーの知らない間に感染し，更に別なパソコンにも感染を広げてしまうという新しいタイプのウィルスです。攻撃対象となるコンピュータは，IPアドレスと呼ばれるネットワーク上のコンピュータの住所を用いて，不特定多数が選ばれるため，誰もがこの驚異に晒されます。

高速ネットワークのインフラがどんどん整備され，気軽に利用できるようになった今日，インターネットを使わないコンピュータ利用は現実的ではありません。自分が困らないために，また他人に迷惑をかけないためにも，個人レベルでセキュリティ対策を行うことは必要であると言えます。対策としては

Windowsのアップデートをこまめに行い，常に最新の状態にする。

アンチウィルスソフトを導入し，ウィルス定義ファイルは常に最新に保つ。

怪しいメールや添付ファイルは開かない。

ブロードバンドルータやファイアウォールで攻撃対象となるポートをふさぐ。

などがあげられます。

しかしながら，コンピュータの進化と共にウィルスも進化しています。今この瞬間にも，更に新しいタイプのウィルスがインターネット上で活動しているかもしれません。常に，セキュリティ意識を高く保つことが大切です。

(電子部)